

町政転流 (10)

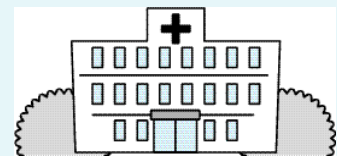
「大島病院」の件は、合併協議会での決定事項であったが、この1件だけが、4年間で実施或いは着手出来なかった大きな協定項目となった。

異常なまでの資材高騰による建設費の見直し、風評により事実関係が見えにくくなったことを鑑みれば、十分な見直しと再検討は必要との意見も理解できる。

ところで、病院や医療制度に関して国が大きく変革しそうである。自民党総裁選では、後期高齢者医療制度を見直すと言明し、中でも年金の改ざん問題は必ず是正するとの点は非常に興味深い。保険

料削減の問題では、舛添厚生労働大臣の組織的関与を認める発言もあった。これからの5年間で20万人が不足すると予測されている介護福祉士の問題については、インドネシアとの外交協定に基づき、彼の地からの介護士を受け入れたい意向も報道された。

国の方針がめまぐるしく変化する今、本町にとって最も望ましい病院が1日でも早く完成することを願って、今議会広報委員会での町政転流を締めくくる。



行政視察 研修報告 8.18~20日 「厚木基地」関連2市

議員17名、中本町長並びに執行部及び議会事務局から6名の、総勢23名にて神奈川県厚木市と東京都町田市の2市へ、米軍再編による岩国基地の空母艦載機に関する騒音問題の視察研修を実施した。



	綾瀬市（人口約8万人）	町田市（人口約41万人）
基地に対する担当部署	企画部基地対策課	特になし（※①参照）
苦情件数	年間約350～380件	年間約300～400件
苦情への対処	1日ごとに集計・記録	企画調整課が対応
騒音測定設備	6ヶ所	5ヶ所
市単独での対策組織	綾瀬市基地対策協議会	特になし
周辺地域との連携	下記2組織に加入（※②参照）	厚木基地騒音対策協議会入会予定
共通点	騒音が100dBを超えると苦情が入る	

※①：騒音調査は、環境資源部環境保全課が担当し、国や基地への要望は、企画調整課が担当

※②：神奈川県基地関係県市連絡協議会、厚木基地騒音対策協議会

両市共、苦情が集中するのはNLP（夜間連続離着陸訓練）実施時であるということであった。総括としては、両市とも担当者の説明の中で、「防音対策ではなく、減音対策です」と言われたことである。今実際に騒音問題と取り組んでいる行政職員の、現場からの正直な実感であろう。今後騒音問題とどう向き合い、住民の安心安全をいかに確保するかが、重要な課題であることを再認識した。